

立科町まちづくり創生会議 提言書

(産業振興部会)

立科町長 両角正芳様

令和3年8月5日

立科町まちづくり創生会議
産業振興部会長 浦野喜芳

立科町まちづくり創生会議産業振興部会では、「産業の振興に関すること。」について、立科町まちづくり創生会議設置要綱第2条の規定により会議を重ね、研究・検討を行った結果を基に、下記のとおり提言いたします。

記

テーマ 【持続可能な農業のあり方】について

1 現状

当町の農業は、高齢化や専業農家の減少等衰退傾向にあり、まさに危機的状況にある。農業では稼げていないことから、事業承継がなされず後継者や担い手が不足している。新規就農では、農業技術や経営ノウハウの習得をはじめ、住居の確保が難しい等難題が山積している。

立科町農業振興公社は、設立し約10年となるが、事業の展開がわかりづらく、停滞感が否めない。

2 提言

(1) 農業経営者の確保

強いリーダーシップを発揮できる人材育成を目的として、農業大学等への奨学金制度を構築し、稼げる農業経営者の育成を支援されたい。または、農業分野で力を発揮している農業経営者を招致されたい。

(2) 専業農家への支援の充実

意欲ある専業農家に寄り添った支援を実施されたい。ただし、補助制度の充実のみを求めるものではない。

(3) 株式会社立科町農業振興公社「たてしな屋」の機能強化

持続可能な農業を推進する「核」となる組織となるべく、株式会社立科町農業振興公社の再構築を図られたい。

テーマ 【魅力ある観光地づくり】について

1 現状

観光を取り巻く環境は、人口減少・少子高齢化、余暇活動や旅行形態の多様化などにより著しく変化している。また、当町の観光地においては豊かな自然環境がある一面、建物の老朽化なども目立ち始めており、このことが観光地の活力の低下を招いている。加えて、長引く新型コロナウイルス感染症の影響により地域経済の衰退、特に観光産業の縮小は観光業に携わる方々に暗い影を落としている。

2 提言

(1) 魅力ある観光地づくりを進めるためには、観光地の目指すべき姿を関係者が共有して観光振興を進めることが必要であることから、町と観光事業者、農業関係者が一体となって取り組む指針(観光ビジョン)を定められたい。

指針には、価値観やライフスタイルが多様化し、旅行スタイルが変化する中にあり、女性の視点も取り入れることを要望する。

(2) 観光地において朽廃が進んでいる未営業施設については、景観や安全面の上で観光地のイメージを損なうことから、所有者に建物の保全を講ずるよう働きかけをするとともに未営業施設を利活用するための支援を検討するなど未営業施設対策の取組を加速すること。

(3) 土地利用等に関して町が抱える課題が山積していることも承知しているところではあるが、白樺高原地域整備計画の見直しを図ること。

以上